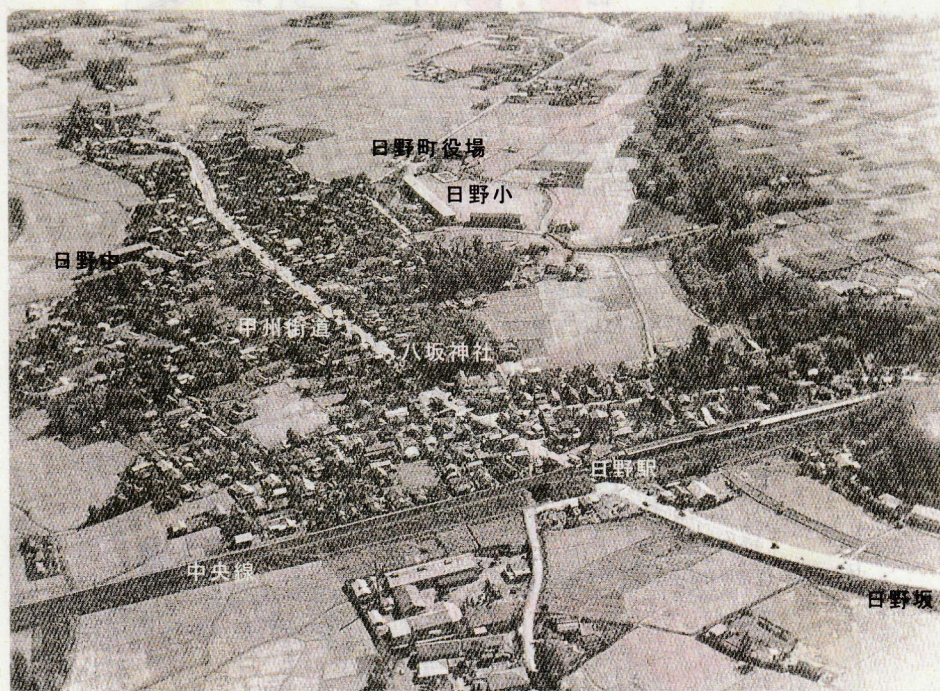


**渡辺生子**（日野図書館分館長）：皆さんおはようございます。日野図書館の渡辺です。日野図書館では地域の皆さんとまちを再発見しようとの思いで日野宿発見隊を組織しました。その活動の一環として、最初はこの町の移り変わりを記録・保存しようということだったのですが、みんながぜひこの際見てもらおうじゃないか。こんないい写真なのでできるだけ多くの人に見てもらおうということになりまして、じゃ、いっそ外に出そうじゃないかということになりました。そこで、その場所の当時の50年前の姿がわかるように、撮影されたその場所に貼り出そうということで「まちかど写真館 in 日野」という写真展を開催することになりました。5月から2ヵ月間やっているわけですが、みんな懐かしいとか、自分たちの親が出ているからうれしいとか、いろんな反響がありまして、大変今評判になっています。それぞれの場所でこの場所が50年前はどうだったかということ、今日は地元の方の案内でお話してもらいます。本当について最近なんですけど、時間が止まったように、何かゆったりとした日野宿だったということがわかるかなと思います。

それでは今日、担当は私、渡辺と、日野図書館の石嶋ですが、案内役を勤めていただくのが横町の**安西清**さん。安西清さんはすぐそばにお住まいです。それと北原の**松本保**さんです。お二人とも地元生まれの地元育ち。ずっと地元に住んでいらっしゃいますので、わからないことがあったら聞いてください。それでは、案内を始めますのでゆっくりと歩きます。

**石嶋日出男**（日野図書館）：すみません、まずこちらの方にお集まりください。これは昭和28(1953)年頃の日野の航空地図です。ここが日野駅です。これが中央線です。で、このところが甲州街道になります。これからこの辺一帯を歩いていただきます。



昭和28(1953)年頃の日野宿

こちらの方の地図ですが、これは**今尾恵介**さんにお描きいただいたイラストです。



渡辺：今尾恵介さんは地図ライターとしてかなり全国的に有名で、いろんな本を出されているのでご存じかと思いますが、日野にお住まいの方です。で、この地図を描いていただきました。

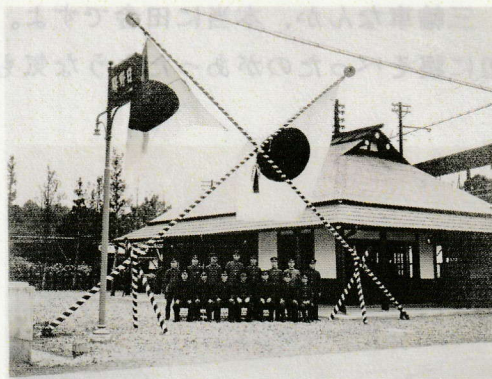
石嶋：ここからスタートして、こういう感じで行きます。ずっとこう行って、こんなふうに回って行きます。大体のコース取り（1から31の順）はこういう感じで、一応2時間を予定しています。





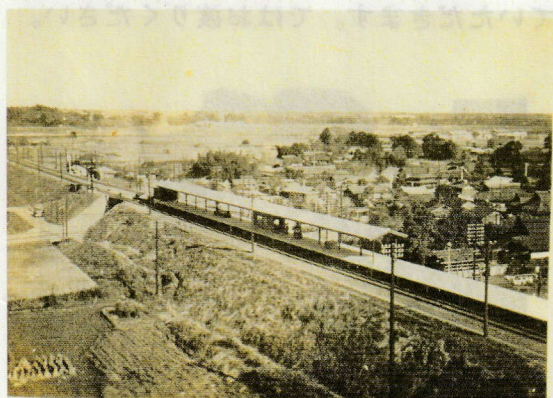
それでは早速、後ろ側の写真から。これが昭和12(1937)年に、もうちょっと前は300メートルぐらい南側にあった駅舎を、こちらに新設という形で移されたときの記念写真だそうです。この中に、この提供者で馬場収さんのお父さんが写っています。それを収さんからお出しいただきました。こういう形で今のこのスタイルと、昔のこのスタイルと、ちょっと比較していただければ。ちょっと向こう側に行ったときに見ていただくと形がわかると思います。

**渡辺**：都内で唯一残る、農家風の建物をわざわざ国鉄が作ったんですよね。



① 現在地に移って間もない頃の  
新駅舎と駅員

昭和12(1937)年 馬場収氏所蔵



日野駅ホーム遠望

昭和12(1937)年 馬場収氏所蔵

**安西清 (横町)**：私はまだ生まれていませんから。

**石嶋**：ではこちら側にお回りください。もう1枚こちら側にあります。これを撮られた松本さんがいらっしやいます。

**松本保 (北原)**：この道路(歩道トンネル)がない頃ですね。甲州街道はこれだけっきりで、この通勤帯にはもう本当にこのところ、日野自動車なんて相当な人が降りましたからね。もうここが出張っちゃって、バスもここへ停まったんですよね。ですから、まあここらですね。それでその向こうはもう何も、田んぼはなかった時代でね。これが、そっちの一番角が売店で、それでこの階段があるためにこういう屋根。で、これがその、向こう側のところから階段は上がって行った。そうそう、そういうことで

**石嶋**：今須永さんに見せていただいているのは、これ、大坂上って向こう側、南側の方の高台から当時のホームを撮った写真だそうです。遠くは多摩川が見えます。ここにちょっと建物が見えるのが、これ、今はないんですが、お蚕さんの研究施設みたいなのがあったそうで、その跡地は今グラウンドとかになっていますが、こんなふうな遠景だったそうです。もし追加していただければ。



② 日野駅

昭和26(1951)年 松本保氏撮



す。三輪車なんか、本当に田舎ですよ。確かに俺、もう1枚あると思うんだけど、犬がこの辺に寝そべったのがあったような気がするんだけどね。そういうことです。



日野駅ホームから日野坂方面

昭和 20(1945)年代中頃 三浦清司氏撮影

**石嶋**：はい、ありがとうございました。須永さん、ほかの写真があるでしょう。これは昭和20(1945)年代中頃なんですが、ホームの上から日野台の坂をこう写した雪景色ですよ。工場の方に向かう出勤途中の人たちを撮った写真です。ずっと向こうに見えるのが、今小学校がある東光寺とか、そうしたところを写したそうです。

それでは、横断歩道を渡って向こう側に移っていただきます。ではお渡りください。

**石嶋**：この写真は30(1955)年代の初め頃のお祭りのときの宮神輿渡御の写真です。ちょうど、もうちょっと先ですが、目の前。東側を向いてください。皆さんの方。遠くに木々が見えますが、あれが八坂神社です。現在はビルに隠れて見えません。ちょうど手前角に派出所があったんですよ。交番です。



八坂神社の祭り—日野駅前

昭和 30(1955)年初頭 鈴木藤隆氏所蔵

**安西**：お神輿のちょっと後ろの四角いのがありますね。これが交番だと思います。それでこちらの方が立川の映画館の映画の看板。これがずっと飾ってあって、それでこの角からこの道が奥へ入っていくと。で、このところは川が表に出ていましたから、ここに小さな橋があって、日野銀座橋というふうな名前がついたのを覚えております。

**石嶋**：それでは前の方にお進みください。この日野駅前から甲州街道東方面を望んだ写真です。松本保さんが撮られていますのでちょっとお話をさせていただきますか。



③ 日野駅前から甲州街

道東方面を望む

昭和 26(1951)年

松本保氏撮影



松本：今もう建物は違いますけどね。それで一番初めは、日通が入る前はここのところにパン屋さんができたんです。日野自動車昭和12(1937)年頃にできたときに、いすずベーカーリーといって、やっぱり2階建てか3階建ての建物があったんです。それでこれが、ここが今のその写真屋。ここにそば屋があって、たばこやなんかを売っていた高木さんという。それでさっき言った映画の看板とかこういうのがここに。その当時交番というのはここには今はない。ちゃんとこの橋の欄干というんですか、これ。そこに今露出している、あれがあります。これがそうですね。こっち(南)側も、これもつぶしちゃってそこの道路になっちゃって。で、これが八坂神社の杜です。

石嶋：それではよろしいですか。それでは前の方にお進みください。おはようございます。回ってきましたのでよろしくお願いいたします。



④ 志村家(屋号「大屋」)

昭和14(1939)年頃 志村章氏撮影

今、こちらの方は志村さんですが、ずっと長く、戦後は米屋さんにお貸ししていたらしいんですが、それ以前は荒物屋というか、お酒なんかも売っていたそうです。それで屋号が「大屋」(「角大屋」とも)というそうです。今は木村さん、今こちらにいらっしゃいますが、木村さんが2階にお住まいで、1階の方も作業場になっているそうです。先だっては2日間だけなんですけど、日野の祭りということで、特別の展示をさせていただいたような次第です。これは昭和14(1939)年頃の、ですから今のご当主の志村磨智子さんのおじいちゃまご夫妻と、あと実の娘さんとお孫さん。このお孫さんは今もう70才近いんでしょうか。ということだそうです。

それでは、ほかの写真ということでここへ。

こちらが志村章さん。磨智子さんのお父様です。志村さんは小西六(現コニカミノルタ)にお勤めだったので、かなり写真を撮られております。で、一番下の三女の方。今、木村さんの奥様になられているまゆみさん。ちょうどこちらの方(南西)から、角度から撮られた建物がこれですね。ここにスクーターが写っているんですが、皆さんラビットってご存じですか。この辺では一番初めにこの志村



父と子 昭和28(1953)年

志村磨智子氏所蔵

章さんが持っておられて、お嬢さん方からすれば、夕方この、何と言うんですか、どういう音だったのか自分にはわからないのですが、音を聞くと「ああ、お父さんが帰ってきた」というのがわかったぐらい珍しかったということです。これが昭和28(1953)年頃の写真だ



そうです。

あともう1枚なんですけど、もうちょっと先の方からこっち（東）の方。こういう方向で写した写真だそうなんです。これは松本さんなんかがよくおわかりだと思うのでちょっとお話を。お風呂屋さんがあった。パチンコ屋さんがあった。



理容やまもと前

昭和 43(1968)年 志村章氏撮影

**松本**：そこに、今工事中のところ。それがですね、お風呂屋の前は瀬戸物屋をやっていた、石川さんってね。その後お風呂屋をやって、その後今度はスーパーをやったりして。で、パチンコ屋をやって、今また工事中なんですけれども。それでこれ、甲州街道。昔はこっちをこう、これが旧道なんです。それで暮れになると「市」といってね、正月に使うお飾りだとかいろんなものをここでこうやったのを、俺なんか子どもの頃覚えています。

それでこの辺、この一帯を「本宿」って通称言うんですよ。ですから甲州街道はここで本当の本宿だったのかどうなのか、あるいはもうちょっと向こうまでいってますから、あるいはもうちょっと向こう側、もとの甲州街道正道ができる前はもっと向こうに、滝山の方へ行くような道があったと思うんですよ。それでこの一帯を本宿ということなんです。

**安西**：すみません、そっちに中宿、下宿という場所があります。

**谷富二（谷戸）**：ここへ出たんですよ、お正月の飾りや何かが。もうちょっとこの向こう側に。そしてあそこは石川さんの瀬戸物屋さん。その向こうに自転車屋さんがあったんですよ。井上のね。

**石嶋**：ではちょっと先に。ありがとうございました。志村さんの隣が床屋さんだったそうです。で、山本さん。今息子さんが跡を取られてますが、この辺に「理容やまもと」という床屋さんを開いていたそうです。で、2階の方の部分は、この山本さんがご結婚なさるということで2階に改築された。そこからは多摩川の方で花火大会があるとそれがご覧になれたぐらいの、すごく周りが景色がよかったようです。



⑤ 理容やまもと

**安西**：うちの親父が同級生で。

昭和 32(1957)年頃 山本豊氏撮影

**谷**：山本さんはこことね、中宿と下宿に床屋さんをやっていたんですよ。



石嶋：春蔵さんと秋蔵さん。

安西：秋さんだね。

松本：「秋床」っていつてね。

石嶋：通称「秋床」。

谷：ええ、そうですね。

松本：下宿にあるのが春さん。

谷：春さんが一番最後までやっていたんだよね。娘さんが今ね、あとやったんだけどね、

4、5年前にやめたんです。前の鈴木なの。

石嶋：「鈴藤」さんの近くです。

石嶋：じゃあ、これからまたこの反対側に移っていただいて。ここに一枚飾ってあるんですが、ちょうど皆さんが立たれているところに、これ消防小屋なんですけど、ちょっとこ



⑥ 甲州街道日野駅方面

昭和 31(1956)年 4月 志村章氏撮影

こは増築したそうなんです。だからここに半鐘がありますよね。これは昭和 31(1956)年ですが、それよりもあとになるとこういうふうな櫓というか、柱が建って、梯子が立って、こうなっていたそうです。ちょうど向こうですね。今交差点が日野駅前東交差点となっていますが、そっちの方向を見て撮った写真ですね。この写真もちょうど比較できると思うんですが、中央線の高架がありますね。

石嶋：あともう 1 枚。これは昭和 39(1964)年だからオリンピックですね。東京オリンピックのときの自転車競走。これは団体競技だったみたいですが、ちょうど八王子の方からこっちに向かってるところですね。ここら辺のところをちょっと、安西さん、どうでしょうか。

安西：まあこのとおりなので、何か逆にご質問があればお話をしたいと思うんですけど。

石嶋：そこの一番左に信用金庫みたいなのがあったですね。

安西：振興信用組合だと思うんですが。それからこれが「せんべい屋」といって、そのこの角の、今の灰色の建物（谷井ビル）のところに荒物屋があったんですね。その昔おせんべいを売っていたんでしょうけれども、屋号が「せんべい屋」ということで、よく小物を買うのに「せんべい屋へ行ってほうきを買って来い」とか、「せんべい屋へ行って下着買って来い」とか。何でせんべいと下着が一緒になるんだというふうな笑い話がありました。

それからその隣がその後曾我さんといって新聞屋さんになったり、魚屋さんがあったり、



東京オリンピック自転車競走

昭和 39(1964)年 10月 小宮山寿一氏撮影



それからお菓子屋さんがあったりというような並びになるんだと思います。

**石嶋**：自転車置き場というのはこの辺にありました？

**安西**：自転車置き場はこっちでしょう。

**石嶋**：あ、もっと向こうですね。

**安西**：小島さんのところですから。

**石嶋**：ああそうですか。

**安西**：ここも小島さんだな、でも。

**石嶋**：何かほかに。山本さん、すみませんでした。先ほどの床屋さんの、今跡を取っている山本豊さんです。すみません、お騒がせして。何か写真のことで、今ちょっとご説明してたのですが、春蔵さんと秋蔵さんと、お父様が、そのおじいちゃまは何とおっしゃるんでしたっけ。

**山本豊（森町）**：ですからうちが秋蔵で。向こうが春蔵です。春と秋で、「春床」さんっていう。当時農家だったもので、非常に大変なので、日銭が入るのが床屋が一番いいというので、親が奉公に出したらしいんですよ。それが都内の方に行っていて、それからこっちに戻って来て。最初はその角のところで床屋をやっていたそうです。それでこちらに移って、で、その辺が「大屋」のおじいさんが、「いいよいいよ」でずっとそのまま居座っちゃったような格好です。

**石嶋**：ありがとうございます。それではまたちょっと戻って、日野駅前東交差点を渡っていただきます。

これ、反対側からこう見ている、向こう側からなんですよ。いや、片桐さんって前はこっちにあった。

ここはじゃあ、安西さん、どうぞ。ずっとこちらにいらっしゃってください。

**安西**：この写真は、今ちょうどお立ちのところから東側に車が停まっていますけど、あちらの方を見たところですよ。先ほど駅の前の川がありましたけれども、その川がここにずっと流れて、今この道の下になっています。両方に欄干があって、それでこのところに1軒、2軒、3軒、4軒、5軒、それからこちらの方に1軒、麦わら屋根の家がそのまま並んでいました。これが安西さん、それで私の家がこの隣の安西。これが風間さん、それから志村さん、それから三田さんと。



① 雪の旧甲州街道宝泉寺方面

昭和 20(1945)年代初頭 志村章氏撮影

で、みんな屋号が各家ごとについておりまして、この安西さんは「瀬戸」と言っていましたね。川沿いだからね。それで私の家が「金子屋」でした。それからその隣の風間さ



んが「やきつき屋」。焼き接ぎというのは、鋏なんかを使っているとどんどん減ってくるんですね、長さが。そうすると鍛冶屋さんがそれに先っちょを足して、それでまた新しい鋏にする。そういうふうな鍛冶屋さんという意味らしいです。それから、その隣の志村さんが「豆腐屋」というふうな、そんなふうな1軒1軒屋号が付いていたということです。で、今ここに立っているところが、そのさっきお話した「せんべい屋」です。「せんべい屋」のところにある薬屋で薬買って来い」という、今の時代はそういうふうになっておりますけれども。

ちょうど雪の降ったところですね。

**石嶋**：この写真は、今疑問に思われた方もいらっしゃると思うんですが、片桐靴店ってこっち側にもあるんですが、この頃はその角っこ、今そこの日野不動産辺りにあったんだそうです。ちょうどこれが四谷の方に抜ける道のところに今、神輿ですか、が行こうとしているところですね。その角っこは、そこはあれでしたっけ。

**安西**：お風呂屋さん。

**石嶋**：本当の手前ですね。あともう1つは逆に、ちょうどこの建物辺りが洋服屋さんですね。

**安西**：小島洋品店です。



八坂神社の祭りーかたぎり靴店付近

昭和30(1955)年頃 志村章氏撮影



八坂神社の祭りー仲町子ども山車

昭和30(1955)年 志村章氏撮影

**石嶋**：この山車は仲町の山車だそうです。この辺は横町、山車は仲町、で、これを撮られた先ほどの志村章さんは「加組」という、横町とか森町とか金子橋と北原の、4つで連合体としてその「加組」があるんですが、その一員だったんだそうです。それでうちには山車がないんでね、来年は何か作ってやりたいと。子どもから引っ張りたいという話があっても、ないものだから応えられなかったときに、そんなコメントがこの写真の裏に書かれていました。

**石嶋**：これがちょうど目の前ですよ。これはお祭りのときに子どもたちが、触れ太鼓というんですか。それを引っ張っているところらしいです。大分変わっていますけども、寿司屋さんなんかもあって。これはあれですかね、質屋さん。

**安西**：質屋さん。この裏の質屋さんじゃないかな。谷川質屋さんってあった？

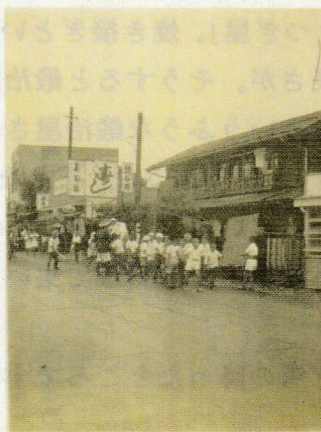
**石嶋**：谷川さんっていう名前が付いているんですが、質さんがあったんですか。

**安西**：看板だけでしょう。



松本：ああ、質屋じゃん。寿司勝もあるじゃない。寿司勝じゃない、寿司藤だな。そこだ、テレビキッズ（現リサイクルショップ）のところだ。じゃあこれが「てっぽ」だ。通称「てっぽ」。

石嶋：「てっぽ」だそうです。じゃあこの写真はこの前で。じゃ、この後また八坂神社の方に回っていただきます。



八坂神社の祭り—子どもの先触れ太鼓

昭和 28(1953)年 安西実氏撮影

石嶋：よろしいですか。これも志村章さんが撮られた写真なんですが、左の方に「菓子店」と書かれていますよね。それはここに、もう1枚の写真を見ていただくとわかるんですが「かどや菓子店」。この辺にお菓子屋さんがちょうどあったんだそうです。この写真、パレードみたいなんですが、これ、いつ頃撮られた写真かはちょっと今特定できませんが、昭和 30(1955)年前後かなという話です。ここに「かどや」さん。この辺にその、通いでやられていた高橋さんという女の方が写っているというところまではわかっているんですが、じゃあこれが何のパレードか、ちょっと今特定できません。面白いのはここに車が、外車ですよ、停まっています、この辺中央に外国人の人が見ていませんですかね。何か男の人と女の人がこれを、このちんどん屋じゃないけどパレードを。



⑧ 八坂神社の祭り—花輪医院前

昭和 30(1955)年 9月 志村章氏撮影



仮装行列—かどや菓子店前

昭和 30(1955)年前後 志村章氏撮影

山本：それ、ちんどん屋か何か。

石嶋：ここに外国の人がこう。というか日野自動車なのかなという、何とか係とか課とかというのがこの下（屋形船の船尾）に書いてあって、そうかなというところまでなんです。志村さんのコメントは付いてなかったんです。このわらぶきみたいのがどちらなんです。たっけ、反対側の鍛冶屋さん。

山本：鍛冶屋の家がわらぶき屋根だった。

石嶋：だからあの辺からこう写したんじゃないかということだそうです。



**松本**：この「かどや」があるんだったら市制祝いかもわからないな、これ。「かどや」というのはそんなに昔はないんだから。だから市制祝いのパレードですね。

**石嶋**：昭和 38(1963)年に日野市になったんですが、そのころじゃないかという話がありました。

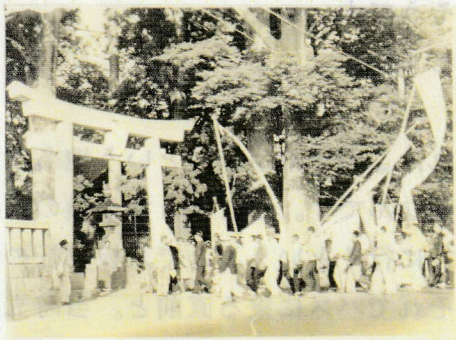
ではこのあと八坂神社の方にまいります。

**石嶋**：これは戸高要（もとむ）さんという方が撮られた、当時としては珍しいカラーなんですね。スライドで撮られたものを起こした写真です。昭和 37(1962)年だからまだ日野町だった、その頃の写真だそうです。ここ、ちょっと小さいのでよくわからないんですが、ここにお正月の飾りが写っているみたいなんです。それでこれは多分 1 月 7 日ぐらいまでのですか。しめ飾りというか、じゃないかということだそうです。



⑨ 八坂神社前から甲州街道南側を望む

昭和 37 (1962) 年頃 戸高要氏撮影



出征祈願

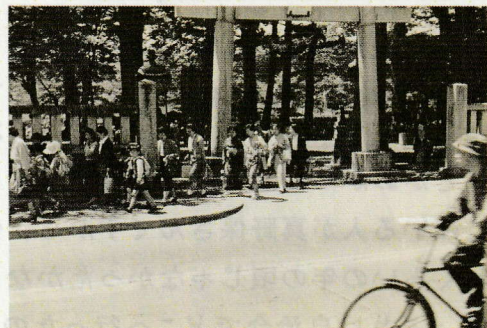
昭和 15(1940)年 松本季男氏所蔵

それから大分たってから、これは昭和 31(1956)年ですか。これはその志村さんのところの一番下のお嬢さんが遠足に出かけるときに、何かこの八坂神社の境内で集まられてから、これから一小のほうに向かうところの写真だそうです。まだこのときは木がかなりありましたね。今と比較していただければと思います。何か追加を。

**松本**：ここに大きな石があるんですよ。

これが日露戦争に行った人の石（日露戦役記念碑）が。これ今この上の矢の山公園というところに移転し

てありますけどね。ここに石があつてまわりを富士山の岩石で囲ってあつた。



八坂神社鳥居前

昭和 31(1956)年 志村章氏撮影



中へ入れないようにできていて、七五三のお祝いのときなんかね、餅をまいたりみかんをまいたり、この上からやったんです。本当にあれですね、木がいっぱいあって本当に涼しい。それでそこにも、今その横断歩道禁止のところにも、こっち側に見える、これがこの道路のそこにあっただけです。それで枯れちゃって、もうこういうふうにしちゃったの。道路のところにも、ですから前は道路はあれだったのが、歩道の部分を引っ込めたのか、どうなのかね。



八坂神社前の通り

昭和 31 (1956) 年 志村章氏撮影

**石嶋**：ここに、子どもたちが歩いているところにレンガが敷かれていたそうです。そしてそのレンガというのは八王子の長沼に大阪窯業という工場があって、そこで作られたレンガだそうです。で、実は山本さんのところにそのレンガが車止めでこの前、使われていたのを発見しまして、さっそく郷土資料館のレンガの専門の学芸員さんに伝えたところ、是非ほしいと言っていたみたいです。前はここにずっとそういうレンガが敷き詰められていたそうです。

では前にお進みください。じゃ、安西さんお願いします。



⑩ 八坂神社鳥居前—森町町内会旅行の朝

昭和 30 (1955) 年 10 月 志村章氏撮影

**安西**：これはこの一帯が森町という地名なんです。自治会なんです。その自治会員の人がどこか旅行に行くということで八坂神社の前集まって、それでバスに乗る直前と。当時立川バスが観光バスの車体に使っていたバスがサザエさんというふうなあれを使っていたね。これ、後ほど裁判沙汰になって、使えなくなったということがあるんですけども、ちょうどそこにサザエさんの絵が描いてあって、ここにもサザエさんが描いてある。そうすると立川バスだなというふう

うなことがわかったということです。

ここにいる人が真野保さんですから、何人かは覚えのある顔はいますけれども、多分私がこれくらいの年の頃じゃなかったかなと思います、多分。

**渡辺**：それは自治会でどこへ行ったの？

**山本**：この写真は自治会で箱根に旅行に行ったときの、集合するときの写真です。

**石嶋**：山本さんは写ってませんでしたか。

**山本**：行ってなかったです。

**石嶋**：ということだそうですね。じゃあ前の方へ。ここを渡ります。渡ってください。ではこちらへちょっと、中のほうにどうぞ。



石嶋：ここが馬場商会という、ガソリンスタンドとか。以前はこちら側、左側が自転車  
で、自転車部門。こちらのほうに整備工場  
みたいなのがあったそうなんです。で、こ  
う写真の中で電柱なんかこう出てくるん  
ですが、意外と今と大体同じような位置に電  
柱ってあるんだそうです。そうするとその辺  
かなという気もしますが、実際はその前の  
市役所通りなんていうのは昭和 50(1975)年  
代にできたので、全然昔はなかったんですね。

ちょうど皆さんの東の方をちょっと。そうですね、南東の方を見ていただくと、これ、一  
番右側がここの、今当主の馬場一衛さんが写っています。目の前の町並みというのが、建  
具屋さんとか床屋さんとか、井上ボタンとかという、何か化粧品なんかも売っていた井上  
さんのところはボタン屋さんだそうです。この辺のことをちょっと、何かあれば。



高校時代の馬場一衛氏とふたりの友人  
昭和 34(1959)年頃 馬場一衛氏所蔵

山本：この今の雨宮さんて書いてあるあそ  
こが、あれが菓子屋さんだっけ。石坂さんのと  
ころにありました。それからその隣に今の  
この井上ボタンとか、それから床屋さん、坂本  
さんがすぐそこにあっただけです。そこが相模  
屋のお菓子屋ですか、相模屋さんがあって、こ  
こら辺がちょっとどいちゃったので。ああ、桃  
井さんがあったんだね。あとは天野さん。天野  
さんはこっちだから豆腐屋さん。ここだったよ  
ね。そんなところでここの辺は。何かよく説明  
ができないのですみません。

不明：それでこの辺に「提灯屋」があった。

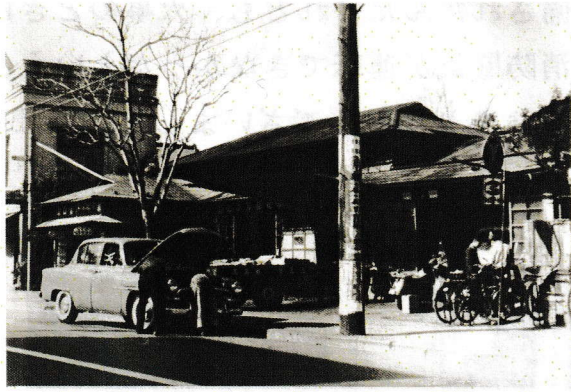
山本：提灯屋はここです。「森屋」(一ノ瀬家屋号)のここ。

石嶋：すみません、ここの写真のこの建物が提灯屋。屋号だと「広瀬屋」さんなんです  
が提灯屋というような言い方をされていた。馬場さんという。ここの馬場商会の馬場さん  
の分家のお宅が広瀬屋さんということだそうです。それで反対側に宇津木さんで「泉屋」  
さん。今たましんが建ってます。それが豆腐屋さん。

安西：これ(「かねこばし」のモニュメント)は別に古いものじゃないんですけど、こ  
の一带を金子橋自治会というんです。多分この裏の用水に架かっていた橋を金子橋と呼ん  
だのかもしれませんが、どうなのでしょう。

谷：いや、甲州街道の、その前の話だよ。

安西：だからこれは古いものじゃなくて、自治会の名前を変えたというあたりだと思  
います。それでこの馬場さんのお父さんというのは、日野で最初に自動車の免許を取ったん



㊦ 馬場商会

昭和 33(1958)年 馬場一衛氏撮影



だそうです。それで自動車の整備もできるようになったと。その当時消防自動車が消防署に配備されたんだけど、火事のときになると「馬場さん、運転してくれ」ということで、消防署員が運転できなかったという、そんな話を聞いたことがあります。

石嶋：ありがとうございました。では前の方に。



甲州街道一振興信用組合付近

昭和 30(1955)年代 日野恭志氏所蔵

石嶋：ちょっとこっち側にお入りください。この景色と今の景色とちょっとお比べください。右手の方に大東京信用組合と書いてありますが、先ほど駅の方に信用組合がありましたよね。それがこっち側に移って、今は大東京ってなっているんですが。遠くにヒマラヤ杉が見えますよね。そこが「<sup>古谷洋服店</sup>武蔵屋」さんですね。こんな光景だったそうです。これは昭和 30(1955)年代ぐらいでしょうか。

安西：歩道がちゃんとできているものね。

石嶋：このトラックなんかは、これ米軍のですよね。

松本：いや、そうじゃない。国産車。

石嶋：こんな町並みだったそうです。では前に、すみません。

石嶋：では、松本さん。ちょっとお話を。

安西：これはオリンピックが始まる前、私が中学校 1 年か 2 年のときですけれどもアジア大会がありました。アジア大会のときの自転車のレースの写真ということですね。これが今ここに残っている石積みの蔵。実はここは渡辺さんという家なんです、元は質屋さん、それをやっていたということでこれだけの蔵が建っていたんだと思います。違う？



⑫ 渡辺家前 - アジア大会自転車競走

昭和 33(1958)年 5 月 古谷永治氏撮影

不明：酒屋さんじゃないの？質屋さん？

安西：で、この町並みがこうなっていて、先程の馬場自転車屋さんがこの辺の並びになります。

石嶋：馬場さんの方ですね、質屋の。御曹司。邦ちゃん。

安西：違うかな、ちょっと言って。

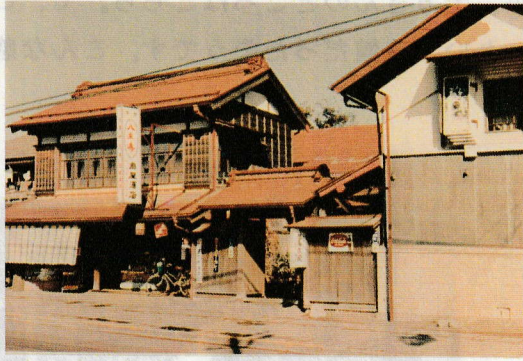
松本：質屋さんは、裏でやったんだ。でもこれはその蔵ですね。

安西：失礼しました。質屋さんはこの裏が入り口だったそうです。すみませんでした。

松本：土蔵があった。

石嶋：土蔵でやっていたそうです。



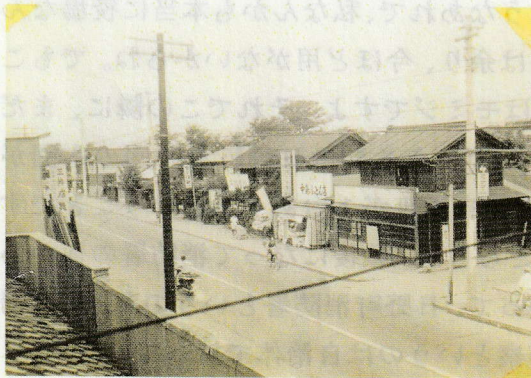


⑬ 扇屋 (馬場家屋号)

昭和 37 (1962) 年 11 月 馬場弘融氏撮影

ちょっと思い出せないんですけどもあってですね。随分この日野町だけじゃなくて、裏山の方が燃えちゃったから、結構遠くからその火事見舞い、茶碗を 10 膳とか、10 皿だとか、縄を何本だとかね、そういう火事見舞いのね。随分遠くからもいろいろ、こういう酒屋の取引があったか何かわからんですけどね。そういうような、書いたものが私ももらって持っていたんです。どこかへ入っちゃっているんですけど。

ですからやはり、この辺は全部馬場が多いんですけど、やはり武田の系統でこちらの方へ来たらしいですね。さっきの馬場自動車屋にしてもそうだし、その隣の、隣の隣も馬場さん。また扇屋とか、そういうことがありますよ。馬場一族がやはり武田の方からこちらへ来たらしいです。本当は市長が出てきて説明してくれると一番いいんですがね。



甲州街道北側 - 柏屋、中島ふとん店付近

昭和 37 (1962) 年 猪鼻洋助氏撮影

みだったそうです。蔵は道路建設時に姿を消したそうです。では渡ってください。

石嶋：ここは仲町というところだったので、写真で見ますとちょうどこの山車があります

石嶋：では、松本さんに。

松本：これが、今この場所 (コンビニ) になっておりますけれども、扇屋酒店。現在の日野市長のお宅です。それで市長のお父さんは戦争で亡くなっているんですけども、おばあさん、お母さんでこの頃やっていたんです。それで市長さんもやっておったと。それでこの裏、ずっと裏はね、やはり旧家ですからね、代々やっていた。それでどこかで私は古い写しをもらったんですけど、やはり扇屋の火事というのが昔、

石嶋：この写真は向かいの方に自転車屋さん (猪鼻輪業) がありますが、その自転車屋さんの方からこちらの北側の写真を撮ったところです。一番左の方に見える蔵がこの扇屋の蔵だそうです。これから今この通りをずっと歩いていくと、図書館の方に行くんですが、反対側から、斜めの方から見るとこんな町並



⑭ 柏屋旅館横 - 仲町山車 -

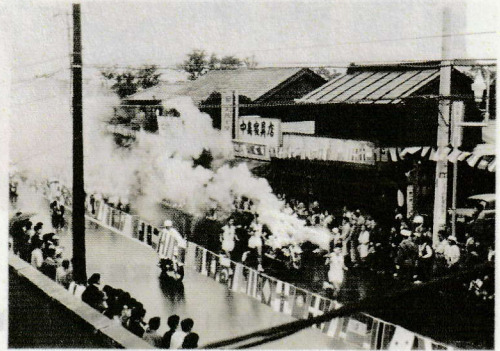
昭和 32 (1957) 年 9 月 古谷永治氏撮影



が、この辺に納まっていたんですね。今のお宅が、土方さんのところはこちら。で、この右側、今ビルが建っていますが、ここが「柏屋」という旅館だったそうです。こんな感じでお祭りのとき。これは昭和 32(1957)年です。

もうちょっと先へ。

先ほどの写真より 1 つこっちへ手前なんです  
が、先ほど見ていただいた中島寝具店。で、今  
は中島ふとん商会。ちょうどこれ、昭和 39  
(1964)年のオリンピックの聖火リレー。このと  
きは何か小雨だったんですか。予行のときには  
曇りだったんですが、当日は残念なことに小雨  
だったそうです。東尚士さん撮影の当時の 8 ミ  
リのフィルムなんかも図書館でお預かりしてい  
ます。一番先頭を駆けているのが米倉三雄さん  
という方だそうです。



⑮ 中島寝具店前

—東京オリンピック聖火リレー—

昭和 39 (1964) 年 10 月 猪鼻洋助氏撮影

石嶋：それでは中の方に入ってください。じゃ、この写真を松本さんからご説明していただきます。



⑯ 日野町役場 —現中央公民館、中央福祉センター入口向かい—

昭和 26(1951)年 松本 保氏撮影

松本：別に人も何も無い、ただ建物だけだから説明も何も無いと思うんですけども、何かこの建物は古い建物だったらしいね。あとこっち側へ足したようなあれで、私なんかも本当に役場なんていうのは余り、今ほど用がないからね。でもこの、これはモミジですよ。それでこの隣に、まだ消防署なんてできる前は日野町消防団の本団があつて、消防自動車も 1 台あつたということですね。で、こちらに、戦後になって消防署の何かあれが変わって、日野町消防署というのが。昔は消防とか警察というのは自治体で持っていたもの

なんです。ですから日野町消防署というのが、まあ、この辺の境がよくわからなくて、こちら側にあつたりね。で、何かこれはそちらにあつたものを、普門寺の方にあつたものをこっちへ持ってきたとか何か、余り詳しいことはわかりませんが。それで、この鬼瓦みたいなやつは、これはこれを壊したときに日野橋のたもとの人が本所さんという方なんですけど、そこへ何か持っていった。で、何かあると、町の行事があるとこの玄関のところで撮ったり、あるいは小学校の玄関のところで撮った写真は結構、私のところでも、国勢調査は何年だった？

石嶋：昭和 5 (1930) 年でしたっけ。

松本：5 年だっけ、あれなんかもここで、これをバックで撮った写真があります。



石嶋：ありがとうございます。じゃ、反対側にもう1枚。今松本さんの方からお話があったんですが、今公民館とか福祉センターになっていますが、ここが小学校、尋常高等小学校があったそうです。



日野尋常高等小学校

昭和4(1929)年 中嶋基宏氏所蔵

今ここにもう1枚あるんですが、これは昭和4(1929)年の卒業アルバムに出ていたものですが、これは子どもたちが遊んでいるところです。実は最近、この小学校の門扉、この門扉の石の礎石ですね。この礎石がその近くにあるということで、それを掘り起こして今図書館の前に飾ってあります。それはこれから見ていただきますが、そんな遺跡も発掘されました。

安西：私たちが中学校に入った昭和30(1955)年から33(1958)年までなんですが、これが校庭で私たちは実際にこの辺の教室で勉強したという覚えがあります。この後こちらの方に調理教室ができたり、ここに図書館ができたりという形でやっていたのですが、グラウンドが狭い、児童が増えたということでこの下に中学が移っています。

石嶋：これが松本さんの撮られた中学校の写真ですね。

松本：グラウンドで、ちょっとこの辺にあたるかと思うんですけども、ケヤキがこれ、影が真ん中の方に、3本かな、4本かな、太いケヤキがあって、その影がそこに写っている写真です。



⑰ 日野尋常高等小学校

昭和4(1929)年 中嶋基宏氏所蔵

今ここにもう1枚あるんですが、これは昭和4(1929)年の卒業アルバムに出ていたものですが、これは子どもたちが遊んでいるところです。実は最近、この小学校の門扉、この門扉の石の礎石ですね。この礎石がその近くにあるということで、それを掘り起こして今図書館の前に飾ってあります。それはこれから見ていただきますが、そんな遺跡も発掘されました。



日野町立日野中学校

昭和26(1951)年 松本 保氏撮影



**石嶋**：それでは前の方にお進みください。  
 じゃあこちらの方へどうぞ。これはちょっと時代的には大分前なんですけど、昭和3(1928)年の昭和天皇の御大典を記念して、かなり町で催しものが行われているみたいなのですが、消防団の団員の方が、ちょうど今ここにある図書館、これは有山さんというお宅の前で消防の、こういう火の見やぐらとかありますが、その前で撮られた写真だそうです。ここの右側に仲町と書いてありますが、これは仲町の御大典の奉祝塔というんですかお祝いの塔だそうです。これはさっきご紹介した駅の近くの「加組」の方でも同じようにやっている。下宿の方にも建てられたそうです。では前へ。



⑱ 有山家前 - 御大典奉祝記念

- 日野町消防組第四部 -

昭和3(1928)年11月 守屋善輝氏所蔵

これが先ほど言いました門柱の礎石だそうです。ここに後ろの公園のところにあったものをこちらに展示してあります。それでは前へ。

ここ日野宿交流館では「日野のこどもたち」という写真展をやっているということをお伝えして、このまま進みますが、お時間がありましたらこちらの方も、月曜日はお休みですが、その他は開いていますのでご覧ください。では前へ行きます。

**石嶋**：それではお渡りください。よろしいですか。ここが落合さん。屋号が「山田屋」さん。よく見ていただきたいのは、ここの、川崎街道なんですけど、昭和になってできたので昭和横丁というような呼び名が付いているらしいです。その車の向こう側に宮崎製材木工所という看板がありますよね。実はここにあったんだそうです。もっと奥の方に今は移っているんですけど、前は、この昭和39(1964)年当時はずぐそばにあったそうです。



⑲ 川崎街道入口

昭和39(1964)年1月 落合和夫氏所蔵

**谷**：ですから、この写真を見ると、ここがいわゆる山田屋さんで、今そのスーパーアルプスの看板の向こうに宮崎製材木工所があり、それで今の古谷さんはその裏にあったんだそうです。

**不明**：すると、後退したんですか。

**谷**：そうです。この道路は、バスが通るようになって道路が広がったときにこれが変



わったんです。靴屋さん（戸崎家）はここから3軒から4軒向こうの自転車屋（今井家）の隣でやっていたんですが、道路が変わるといので引っ越したんです。そういう状況です。

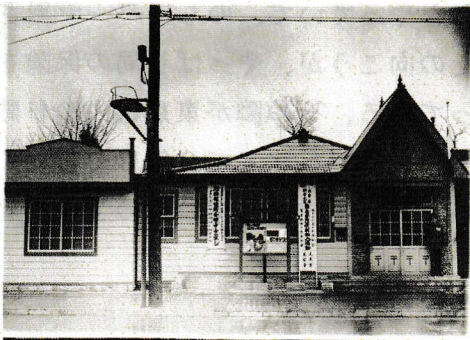
**山本**：わかりました。何となくわかった。

**石嶋**：ということだそうです。それではちょうど青になりましたので、お渡りください。

**石嶋**：これは高幡のお不動さんへ行く道ということで、実際ここ、今あるんですが、これは明治17(1884)年に建てられたそうですが、実はこれ昭和横丁ができるときに大門通りの入り口付近からここに移ってきたものです。これから今歩いていくときにもとあったところをご案内しますが、もともとはここにあったのではないそうです。

**石嶋**：よろしいですか。それでは、この今本陣の写真と、猪鼻さんの自転車屋さんの写真、ちょうど猪鼻さんがいらっしゃいますので、ご説明いただきます。

**猪鼻洋助（仲町）**：おはようございます。今日はどうも。ここにお勤めになっていた馬場さんもおられるんですけどね。今考えてみますとこの隣に大きな呉服屋さんがあって、よくここにあんな大きな家が建っていたかなと思うくらいの景色なんですけれど。この門なんですけどね、余り、多分案内の人も説明していないと思うんですが、私なんか小さいときにはベンガラが、下佐藤さんの門には塗ってあったんですね。それでちょっと赤みを帯びていましてね。朱じゃなくてベンガラだという話なので、ここにおられる馬場さんにちょっと伺ってみます。



㊦ 旧日野郵便局 一下佐藤家、日野宿本陣  
昭和18~20(1943~45)年頃  
佐藤彦五郎新選組資料館所蔵



旧日野郵便局 一下佐藤家、日野宿本陣—  
昭和52(1977)年頃 馬場 収氏撮影

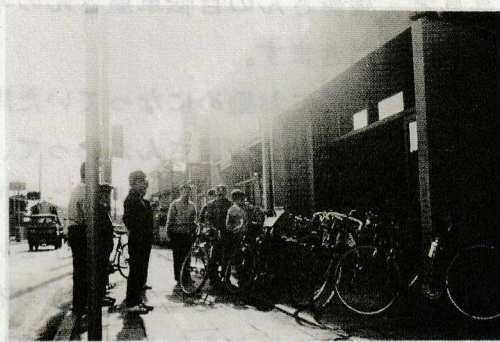
馬場さんなんかの入った頃、あの門が上佐藤のは白木で、色が塗ってあったと思うんですけど、そこら辺記憶はどうでしょうか。

**石嶋**：これが馬場収さんから提供していただいた写真です。

**馬場収（仲町）**：この写真は、昔は、今は余りそういう特定郵便局という名前は言いませんけれども、特定郵便局という形で代々その局を開いた、ここで言えば佐藤昱（あきら）さんでしたかね。その前は佐藤仁（じん）さんだったかね、いるんですけど、そういった



ことで。これは昭和 31(1956)年頃まで、ちょうどこの門がある左に局が建っていました、昭和 37(1962)年に特定郵便局というのが廃止になって、普通郵便局、それが先ほど言いました図書館、そこの。図書館に新しい2階建ての局ができて、それでその後10年ぐらいいして、今度は今の向こうの局に移ったんです。当時はだから電話の交換の仕事もやっていました。そういったことでもう大分長く、ここに昭和 23(1948)年から昭和 41(1966)年まで18年間。向こうは行ってないですよ。そこまでね、あとずっと転勤転勤で40何年勤めましたけど。そういったことでここにはえらい。当時ここに佐藤彦五郎の道場が前にあって、それで私、ここにいる頃はそこの本陣の家の中で卓球をやったりしたんです。台所で。そういった記憶がありますけど。そんなことで懐かしい写真。どうもありがとうございました。



② 猪鼻輪業

昭和 37(1962)年頃 猪鼻洋助氏撮影

石嶋：ありがとうございました。では猪鼻さんのお店の方の写真。

猪鼻：この写真なんですけどね、昭和 37(1962)年ごろ、第1次のサイクリングがはやっていたんです。市内の業者が市内の子どもさんや何かを連れて、町田の方とか北多摩の方へサイクリングしたときに、朝のスナップでちょっと撮っておいたやつなんですけどね。この写真で今ちょっとなくなった家もたくさんあるんですけれども、うちの隣が土方さんといって呉服屋さんをやっている、のちにパーマ屋さん

になった家がかすかに写っていて、局の三角屋根、その向こうが、やっぱり局の保険を取り扱っていた日ノ出屋さんの看板がかすかにまだ残っている、その隣が東京電力の日野の事務所のところがちょっと入っている。うちの家はそのまま、建てて2年目ぐらいの、多分写真だと思うんですけどね。そんなような写真がうちに1枚残っていたので、図書館の方へ提供したような次第です。

石嶋：猪鼻さん、じゃ、今度はこっちで。

猪鼻：それではこの、今図書館の方が持っている写真が、うちの隣、ここから隣が長屋門になっていましてね。長田履物店、吉野八百屋、その次が上佐藤の、少しへこんで門がありまして、この門が少しへこんで撮った写真なんですけどね。このような立派な長屋門がつい30年ぐらい前までは残っておいりましたが、今ほとんど現状のまま向こうへ冠木門の形で残ってありますね。今この前に



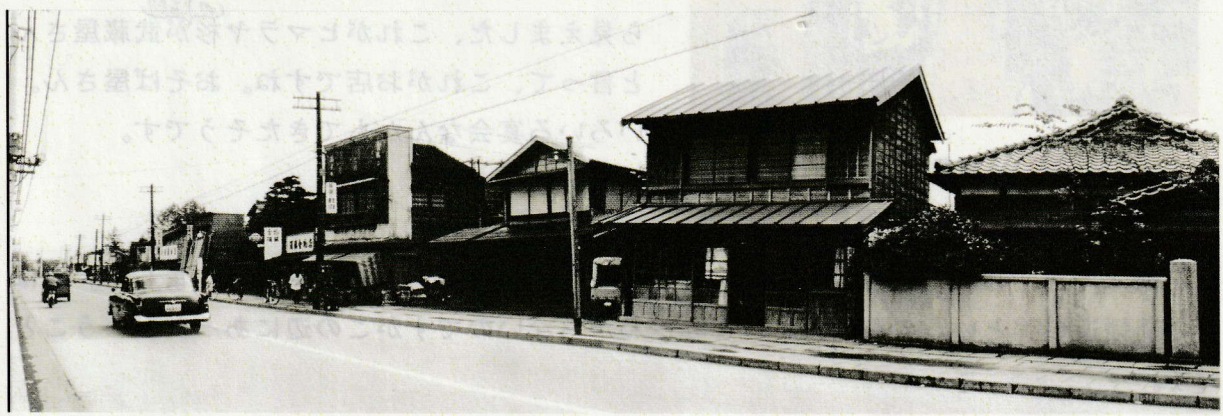
長田履物店前

昭和 56(1981)年 猪鼻洋助氏撮影



写っているのが私の次男坊で、昭和 54(1979)年の生まれの子どもが、ちょっと 2 歳ぐらい、1 歳半か 2 歳ぐらいのときのが写っていますね。大分風景変わっていますが。

石嶋：どうもありがとうございました。それでは前の方に。



⑫ 甲州街道南側の町並み一大門通り東 昭和 35(1960)年 戸高 要氏撮影

これは戸高要さんが撮られた写真なんですけど、実はこれともう一対反対、これは東側なんですけど、西側の写真が、あとで見ていただきますが、今で言う日野本町二丁目のあの交差点から東側と西側を撮られた写真だそうです。ちょうどここ佐藤元雄さんのお宅に、今飾らせていただいているのは、屋号で言うと「藤屋」さんというんですが、ここに木が見えますよね。この木、今その上に見えますあの木がこの木だそうです。今と比べても変わらないですけども、そこから東と西を見比べていただければと思います。戸高さんのお宅はこの、今はマンションになっているところです。



⑬ 甲州街道南側の町並み一大門通り東 昭和 35(1960)年 戸高 要氏撮影





武蔵屋

昭和 40(1965)年頃 佐藤美智子氏所蔵

それでは前の方に。先程の東側と、これが反対側になります。西側の町並みですね。ここがちょうどその左側の入り口で、大門通りと言われたそうです。ここからちょうどこれが八坂神社の方向ですね。で、さっき日野駅の方から見えました、これがヒマラヤ杉が武蔵屋さんと言って、これがお店ですね。おそば屋さん。いろいろ宴会なんかもできたそうです。

石嶋：それでは大門通りに入らせていただけますか。あ、そうだ、言い忘れました。先ほどの高幡道の碑というのが、ちょっと私はわからないのですがこの辺にあったということです。

石嶋：これが通りに、そちらの方から南の方を写した写真だそうです。写された戸高さんによれば、左が郷土史家だった谷春雄さん。右が井上さん、というところまではわかっています。では前の方にお進みください。



㉔ 大門通り

昭和 37(1962)年頃 戸高 要氏撮影



㉕ 大門橋から甲州街道方面を望む

昭和 33(1958)年 1月 古谷永治氏撮影

石嶋：おはようございます。お世話になります。佐野文子さんの壁を借りて貼らせていただいています。ちょうど目の前辺りが大門橋ですよね。があって、その辺からちょうど甲州街道の方に向けて撮られた写真だそうです。

安西：これはこの第一小学校に、私が毎日通った通学路です。多分この当時小学校、この道を通っていた。こちらの方に畑が広がって、モミジの木があって、その先が大昌寺の入り口ということで、今小学校の前の道が参道になっています。

松本：これはお店屋さんかなあ。



安西：新聞屋さんはまだ来てないよな、  
読売新聞。

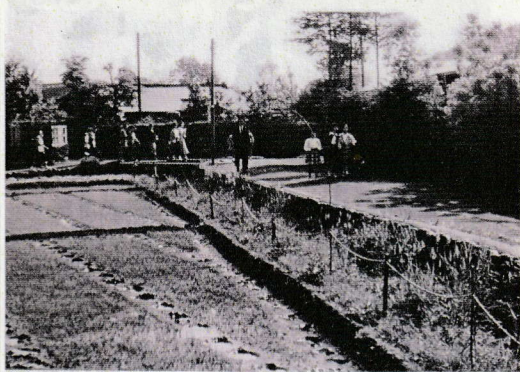
石嶋：ここは野村さん。文房具屋さん。

松本：その角が、その店。

石嶋：こちらに1枚あるので、では皆さん  
こちらの方へ。いいですか。そっち側から見  
ていただいた。そっちとこっちと、こう。

安西：今の黄色い建物が日野第一小学校で  
すけれども、第一小学校の校舎がここにあり  
ます。この裏道がずっと、今市役所通りがこ  
っちにできましたけれども、市役所通りができる前の、その高台に登っていく道です。当時この高台には、ここに何軒か家が見えますけれども、この一並びの家だけで、ほかはもうずっと豊田の方まで畑が広がっていました。もちろんこの前も田んぼが広がっておりまして、これが大昌寺に入る、お葬式なんかのときに行列がここに入って行ったということを知っています。で、この用水にはドジョウがいたりフナがいたりということで、今もこの下が、その用水が暗渠になっています。

振り返って、そこに用水が見えますけれども、これがずっとこの道路の下を通過して、八坂神社の裏を通過して、全部川が直接見れたんですね。先ほどどなたか、この川も大分、水の質はどうですかということがあったんですが、一時随分汚い川になりました。農業用水ですから田んぼのあるときだけは満々と水が流れるんですが、そうでないときは非常に水の量も少なく、下水も使っていると。で、ここで下水が完備して、随分魚が直接見られるようになりました。この下辺りにはコイの50センチぐらいのものがいっぱいいますけれども、最近はずいぶんハヤみたいな速い魚やアユがここを遡上してきているということが確認されています。当時フナがいて、ドジョウがいて、ナマズがいてというふうな、そんな川でしたし、ちょっと掘れば5ミリぐらいのシジミがいっぱいいました。そんな川だったですね。



大門橋付近

昭和31(1956)年5月 志村章氏撮影



26 大門橋付近より大昌寺坂方面を望む

昭和33(1958)年1月 古谷永治氏撮影

石嶋：じゃあこちら、ちょうど皆さんの  
方この辺ですよ、この辺。今、先生とかが  
こう。ちょうど皆さんの方から見るとこうい  
う感じですね。この辺に今、先生方かな、渡  
っているのが大門橋ですね。その写真が逆の  
反対側の南側ということだそうです。

あと、これが日野一小の上から撮った写真  
だそうです。見えますか。上の方に用水が、  
今みたく暗渠じゃなくて開かれていますけど、  
この暗渠も秋ごろには開かれる予定だそうで



す。一部、ということです。では大昌寺の山門の方にお歩きください。

よろしいですか。この「日の一小」という人文字の左が、これが増築の校舎なんですが、その左手が、皆さんが今立っておられる用水、これですね。で、ここですね、それがこの参道。まわりはもう田んぼ。田んぼだったそうです。で、ここの参道をこう、このお葬式、先ほど馬場商会の岩松さん、先代の方のお名前が出ましたけれども、その方のお葬

式のときの写真なども図書館の方でいただいていますけど、ちょうどこの参道を葬列が通っているところが写っていました。では皆さん、この参道をどうぞ。

谷：前はここに家が全然なかったですよ。ここだけね、村野さんと佐藤さん。



航空写真－日野一小

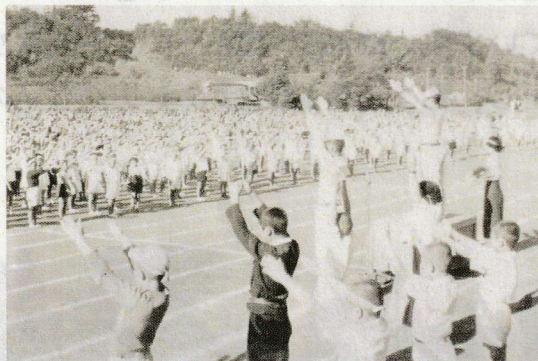
昭和 30(1955)年 安西清氏所蔵

石嶋：佐藤六壽さんの本家ですか。今は違うんですかね。

谷：ここから向こうはなかったんですよ。川のところまで。

石嶋：これは日野小の校庭から運動会的时候に撮られた写真だそうですが、真ん中の方の坂が先ほどおっしゃっていた大昌寺坂ですね。手前がこれ、谷さんでしたっけ？小池さんですか、のお宅。こんなふうに見える景色が見えたと。今は高速道路で阻まれているということですね。それでは前へ。

石嶋：では谷さんから。



日野小学校秋季大運動会

昭和 26(1951)年 10月 安西清氏所蔵

谷：今のこの写真でちょっと説明しますが、今山門は開いていますよね。これが大昌寺です。こちらが、ここの佐藤さんですね。当時は、ここのところには大昌寺から向こうの堀まで、用水浴いまでは小池さんという家が1軒あったんです。それでこちら側は佐藤さんがあって、ずっと向こうまではなかったんです。それで今入ってきた通りのところですね。あそこは橋を渡ってすぐ左側はなくて、村野さんと佐藤さんがあって、それでその道



の向こう側は今2軒、小学校までの角にあります、それが当時は大野さんという家が1軒あって、それで大野さんの娘さんと結婚した小関さんという人が家をつくって、あそこは2軒できてたんですよ。実は小関先生は私が小学校の6年生のときの先生だったんです。まだ独身だったんです。それで学校から向こうの川崎街道までは佐藤さんという家がこちら側にもあって、角がですね。向こうが石田八百屋さんですね。それで橋の右側が山本という菓子屋さんだったんです。それで今、その向こう側は、さっきちょっと私が説明しましたように、靴屋さんとか今井の自転車屋さんとか。そういう状況です。



㉑ 大昌寺山門

昭和 20 (1945) 年代後期 志村章氏撮影

石嶋：はい、ありがとうございました。じゃあこちらから。

石嶋：こちらへどうぞ。ここ、先程見ていただいたんですが、一小の裏、北側に用水が、今皆さんが歩いてこられたところです。それがずっとここですよ、ずっとトコトコ歩いて来て、この辺なんですか、でしょうかね。そこでこうクランクして。そうなんですよ、もうちょっと向こうですね。

谷：ここがあれがあった。こう曲がっていたから。水車があった。

山本：水車がこの辺にあったよね。

石嶋：大体この辺ですか。実はここに、これをもとにしてポスターを作りました。皆さんチラシをお持ちだと思んですが、この方は文字で隠っていたんです。で、後姿のこの男の子のお母さんが、ああこれは私のところの子ども。で、多分この文字に隠れている弟さんの、今役所に勤めてい

それで、大分ここに家ができたのはその後のことですね。それでこの山の向こうに、先ほど写真で2軒ばかり家があったのは、東京都に住んでおった安井さんという人と、現在はやはり日野におりますが、農林大学の先生をやっています亀井さんの家があったんです。それで亀井さんのところが上を整理するというので引越したんです。



㉒ 大昌寺裏の日野用水

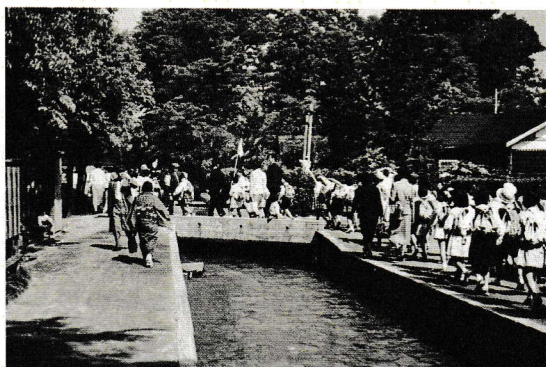
—大昌寺西—

昭和 37 (1962) 年頃 戸高 要氏撮影



る方だろうということ。そうしたらこの奥さんが、お父さんの、旦那さんの昔の様子、こういう写真がほしいので、これを譲ってくれないかという話で、お母様がわざわざ図書館にいらっしやいました。これは発見だったんですが、松本さんの兄弟だったそうです。

で、先ほど、今立川さんってありましたけど、これがお灸を据えている灸点所が。で、ちょっと行くとこのクランク。この辺りの東尚士さん撮影の8ミリも、動画も図書館にありますので、またそういうのを見ていただく機会を設けたいと思います。それでここ、これをちょっと覚えておいていただいて、反対側にお移りください。



㊦ 八坂神社裏日野用水

—上野動物園校外見学の朝—

昭和31(1956)年5月 志村 章氏撮影

**安西**：私たちが子どもの頃通った道なんですけれども、この1軒ごとに、この道から一旦この前に降りられるような階段があって、ここにちょっとした板の、3尺四方ぐらいの洗い場があったんですね。洗濯物を洗ったり、その昔は食器も洗っていたくらい。

**谷**：ここはね、前は水車があったんです。ですからここから水をこう、こちらにとって、それで水車で使ってそちらへ流していたということですね。私は全然、5年ぐらい前は、じゃなくて昭和20(1945)年から昭和25(1950)年ぐらい前までこの一帯の田んぼ

かきをやりました。

**石嶋**：先程覚えておいていただいたこの橋ですね。それが逆に今度は向こう、西側の日野駅の方に向かって子どもたちが、遠足ですかこれ、日野駅に向かっていてる映像だそうです。それで、よく見るとここに女の子が腰掛けているのがわかりますかね。当時は何かもう柵なんかなくて、結構ここへ落ちたことがあるという方、お聞きしますけど、結構大胆だなと思うんですが、そんな時代だったそうです。向こうに見えるのが八坂神社の杜です。これがその、今駐車場になってますが、堤さんという釣具屋さんだったそうです。何かそのほかに。

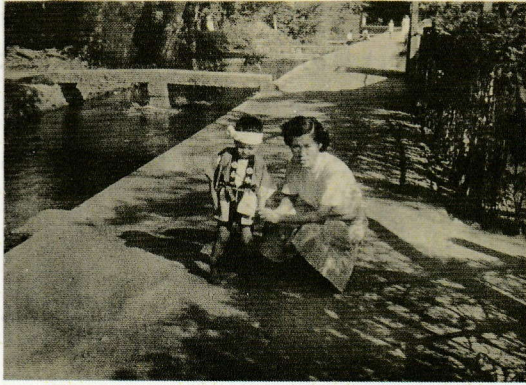
**山本**：先ほどの水車小屋の取り入れというのは、神社の脇から別に水車用の用水がありました。本水はそのまま流れていて。

**谷**：ですから、ここは全部、田んぼだったんですよ。ずっと向こうからですね。

**山本**：全部この辺、田んぼですから、神社の裏。それから日盛倶楽部というのがすぐこちら辺にあったわけなんですよね。こちら辺に蔵があって、唯一の娯楽施設だったそうです。我々は余り行ってないんですけれども。そんなところですね。

**谷**：ですから当時はね、この前には家が2軒ばかりあっただけなんですよ。あ、3軒ですね。現在も2軒古い家がありますが。それからもう1軒大塚さんという家があったんですが、今は引っ越して駅の、安西さんの裏の方に行っています。そういう状況で、ここはほとんど田んぼで、ずっと向こうまで、山の下まで田んぼになっていたんです。





八坂神社裏通り一母と子

昭和31(1956)年9月 真野保氏撮影

石嶋：じゃあこのあと、前へお進みいただきます。

今から見ていただくのはこの、真野保さん。真野さんも志村さんと同じで小西六にお勤めだったそうです。真野さんの先輩が志村さんで、同じ森町なのでごくかわいがってもらったというお話を伺っています。その真野さんが撮られた写真を今、ちょうど皆さんの立っておられるところが用水ですよ。で、その脇にこういう歩道があって、そこで真野さんの奥様とお子さんを写された写真だそうです。

ずっと奥に、ちょっと皆さんからは見づらいかもしれないんですが、先ほどクランクしていた橋がありましたよね。それが写っています。その下で子どもさんなんか水遊びをしている。それとお祭りだから9月頭ですよ。その頃のワンカットだそうです。

で、ここに、左の方に大きなケヤキが写っているんですが、そのケヤキというのはどのケヤキですかね。

谷：今、切り株が残っているでしょう。あそこに小山さんの家があってね、その前だったですけど。

安西：で、ここに石の、御影石の橋があって。

石嶋：じゃあここにあったんだ。その頃は社務所はまだなかったですかね。はい、わかりました。

石嶋：それでは前の方に、すみません。あと宝泉寺と安西さんのところ。ここで曲がっていただいて。それでは渡ってください。

これは安西清さんのお兄さんの実さんが撮られた写真だそうです。どうですかね、本堂とか閻魔堂とか鐘楼。

山本：これが閻魔堂だよ、今そこがそうですね。これが本堂の方ね。ここが釣鐘か何かの、今もありますよね。

安西：あれはだけど、釣鐘はまだあとからできたんだよ。

石嶋：そうすると、これなんです、やっぱり今のあのイチョウですかね。

山本：そうじゃないですか。

安西：ここに、こういうふうに、双幹という2つの幹のイチョウがあったんですね。その片方を切ったからこっち側に枝がないんですけれども、今そこにある木です。秋になる



30 雪の宝泉寺

昭和30(1955)年前後 安西 実氏撮影



と銀杏がたくさん落ちて、台風のあとなんかみんな拾いに行ったものなんですね。こちらの方の閻魔堂は今、屋根が変わっていますけれども、その下は昔のままです。それから本堂も4年ほど前に建て直しましたから、これは昔の本堂のところですよ。この用水があって、この手前の田んぼから稲作があって、向こうを通ったということで、この辺、この道からずっと大昌寺まで全く家がありませんでした。



山下堀から宝泉寺方面を望む

昭和31(1956)年4月 志村章氏撮影

**石嶋**：この写真なんですけど、もっと先の方、一小の方からちょうど今こういう感じですね。よく見ていただくと、日野駅のホームが見えると思うんですが。この手前が、ここが大昌寺坂と先程言いましたが、山の方に行く入り口のところですよ。で、そこの辺からずっとこの用水が、というより向こうから、多摩川の方の取水口の方からこう流れてきて、というふうですね。ホームの下を通っているやつですよ、これね。

**山本**：そうです。両方だよ、あそこで合流していたから。小西六から来た水とここからきた用水と。

**不明**：今でもホームの下を流れているんですか。

**石嶋**：そうなんです。

**安西**：当時この川にはフナだとか鳥がたくさんいまして、この裏の山にはウサギもいたと。「ふるさと」の歌を歌うと「小鮒釣りしかの川」という、まさにそんなふうな風景だと思います。

**山本**：それからホテルがたくさんいて、蛍狩りはもう、毎回来ていたですね。

**不明**：家の中へ入ってきちゃった。

**石嶋**：では前の方に。この下辺りをやっぱり流れて、この下。ここだと、ですから安西さんところは、こっち側。ちょうどこの用水が上を、ここを歩いて。よろしいですか、安西さん、ここで。

**安西**：これもそうですね。うちの兄貴が同じ雪の日に撮ったんだと思うんですが、ここから宝泉寺の方に向かって坂ですね。ここから坂が上がっていくところです。手前に見えるのは先ほどの麦わら屋根の続きの中の、最後にあった三田さんの家の麦わら屋根だと思われま。この裏にももう1軒、別の三田さんの麦わら屋根の家がありました。



雪の日の宝泉寺脇旧甲州街道

昭和30(1955)年前後 安西 実氏撮影



**石嶋**：それで、この道が旧甲州街道で、ちょうど中央線を踏切が、その辺りですかね、踏切があって、その踏切を渡った左手に前の日野駅があったんだそうです。それを昭和12(1937)年に今の位置に移されたということだそうです。

**石嶋**：じゃ、最後になりますけど、渡っていただいて。

今度、日野一小の特別支援の子たち、3年生から6年生の子に映画とスライドを見てもらったんですが、今度はその子たちも町歩きで、やっぱりこのコースを回りたいと。それを今度また行う予定です。

**安西**：これが最後になりますけれども、最後、私が順番を決めたわけじゃないんですが、これが私の生まれた家です。先ほど雪の麦わら屋根の並びがありましたけれども、向こうから2番目のところなんですね。こういうふうな場面があるということ想像していれば障子を張り替えておけばよかったと思って。大分痛んだ障子ですね。大体この甲州街道が約1メートル、家が建っているところよりも盛り土してありましたから、それで家がちょっと低く見えますけれども、手前のところが12畳ぐらいの部屋があっ



㊶ 金子屋(安西家屋号) -西側-  
昭和28(1953)年頃 安西 実氏撮影

て、あと2部屋、3部屋あって、私のところは12人家族というのが一番最高のところがありましたけれども、12人。ごろごろ、縦横2人ずつ布団に入るという状況でした。

この脇の方に入り口がありまして、ここにいつも冬の薪がこら辺にいつも積んであったりして、この並びは、これは反対側なんですね、私の家の。これの反対側です。この並びの麦わら屋根は、全部入口が裏にあるんです。ここから坂で降りていって裏側が入口という並びなんですね。これは何か聞くところによると江戸時代、この甲州街道を参勤交代でお殿さまが通るときに、玄関口が表にある人は道路に出なきゃならない。で、土下座をしなきゃならないという習慣があったらしいんですが、それをしらばっくれるために入口を裏に置いたというふうなことをちょっと聞いたことがあります。

大体ずっとここから一見ずっと、大体道路に対して1軒の幅が約10メートル。で、奥行きが50メートルぐらい。こんなふうな同じぐらいの区画でずっと1軒1軒が並んでいたという状況です。麦わら屋根の寝心地もなかなかいいものでしてね。もともと蚕が盛んだったから、お蚕ができてというふうな、そちらの方を優先的に考えての麦わら屋根だったようです。

**渡辺**：いつまでありました？ 麦わら屋根。

**安西**：私が小学校5年ですから、昭和27(1952)年か昭和28(1953)年までこの状態でありました。

**渡辺**：じゃあお蚕していたの。



**安西**：ええ、もちろんです。うちは農業でしたから。この前の道も砂利道だったんですけども、刈入れの済んだモミだとか、そういったものをひと川並べに蒔（むしろ）を敷いて、この通りで干したくらいです。この辺になるのかな。

**石嶋**：この並びですよ。

**安西**：これは駅の向こう側からこっちを撮ったところですけども。この道が先ほど言ったように本当の甲州街道ということです。私の家は昔「金子屋」といったのは、甲州街道ということで足袋をつくって売っていたらしいんですね。この麦わら屋根を壊したときに、屋根裏から足袋の型紙、これがいっぱい出てきました。そんなことがありましたけれども。以上です。

**石嶋**：安西さん、ありがとうございました。今日は予定通りちょうど2時間で、すごくハイペースで申しわけありませんでした。実はこのあと私ども、一小の子どもたちとまた回るなんていう企画もあります。いろいろこれから図書館も、こういう町歩きを予定しております。何かの機会がありましたらまたご一緒させてください。では、最後に館長の方からお話があります。

**渡辺**：どうも今日はありがとうございました。遠くからいらっしゃった方もいて、本当にありがとうございました。私たち図書館は、町の人と一緒に、名所旧跡とかいうことじゃなくて今住んでいる人たち、この人たちこそが宝だということで、今住んでいる人たちの中からのお宝発見をしております。皆さまぜひ図書館の方にお越しになってくだされば、いろんな日野町のことがわかるような資料も揃えておりますので、いつでもいらしてください。本日はどうもありがとうございました。それから講師になってくださった安西清さん、松本保さん、どうもありがとうございました。では駅まですぐそこですので、歩いて帰ります。失礼します。